

三重県保健医療計画(第5次改訂)評価表 【小児救急を含む小児医療対策】

目標項目	策定時の数値	数値目標	目標達成までの時期	評価体制	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後 【現状値】	最終評価
幼児死亡率(人口10万人あたり()内は全国平均)	33.5 (27.6)	全国平均以下	5年後	三重県小児医療懇話会	30.3 (20.9) (H24)	19.4 (18.6) (H25)	17.8 (19.3) (H26)	15.6 (19.4) (H27)	10.7 (17.7) (H28)	A
小児科医師数(人口10万人あたり()内は実数)	10.8人 (200人)	12.4人以上 (229人)	5年後	三重県小児医療懇話会	10.7人 (197人) (H24)	—	11.5人 (209人) (H26)	—	11.5人 (208人) (H28)	B
救急搬送数(乳幼児の軽症者)	2,017件	2,017件 以下	5年後	三重県小児医療懇話会	2,190件 (H24)	1,924件 (H25)	1,768件 (H26)	1,768件 (H27)	1,907件 (H28)	A
小児傷病者救急搬送時の現場滞在時間 (現場滞在時間が45分以上の割合)	0.40%	現状維持	5年後	三重県小児医療懇話会	0.38% (H24)	0.51% (H25)	0.42% (H26)	0.44% (H27)	0.17% (H28) 速報値	(A)
小児の訪問診療実施機関数	7施設	14施設	5年後	三重県小児医療懇話会	0施設 (H24)	※ (H25)	8施設 (H26)	9施設 (H27)	—	(B)

評価 A:達成

B:未達成(策定時より改善)

C:未達成(策定時と変わらず)

D:未達成(策定時より悪化)

※最終年度の数字が出ていない場合や速報値により評価した場合は()書きとしています。

取組方向	これまでの取組実績
取組方向1 小児医療を担う人材の育成・確保	<p>【医師確保】</p> <p>○平成24年5月に三重県地域医療支援センターを設置し、修学資金貸与者等の若手医師が、地域の医療機関をローテーションしながら専門医資格を取得できる三重専門医研修プログラム(小児科を含む)を、三重大学及び各病院と協力のうえ作成するとともに、修学資金貸与者等にプログラムを利用してもらうよう働きかけを行いました。(H25～29年度)</p> <p>【人材育成研修】</p> <p>○小児患者に対応できる医師を増やすため、内科医等、小児救急医療に携わる可能性のある医師を対象にした小児救急医療研修を開催する取組に対し必要な経費を補助しました。(H25～29年度)</p>
取組方向2 地域差のない小児医療提供体制の充実	<p>【医師派遣】</p> <p>○小児科医の不足する地域に対し、三重大学医学部附属病院から小児科医の派遣を行いました。(H25～29年度)</p> <p>【小児救急医療体制整備】</p> <p>○休日・夜間の小児救急医療体制の整備に向けて、輪番病院等における小児科医の確保に必要な経費を補助しました。(H25～29年度)</p>
取組方向3 小児医療に関する情報提供の充実	<p>【救急医療情報提供】</p> <p>○三重県救急医療情報センターにおいて、コールセンターの電話案内やインターネットの「医療ネットみえ」より、受診可能な医療機関の案内等、初期救急医療の情報提供を行いました。また、関係機関と連携し、時間外診療が可能な医療機関の「医療ネットみえ」への参加促進に取り組みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話案内件数(小児科) H29:7,470(H29.12末現在) (参考H28:11,859件、H27:12,920件、H26:13,187件) ・インターネットアクセス件数(全診療科) H29:179,211件(H29.12末現在) (参考H28:204,220件、H27:264,919件、H26:209,599件) ・参加医療機関数 H29:651機関(H29.12末現在) (参考H28:654機関、H27:651機関、H26:634機関) <p>【みえ子ども医療ダイヤル】</p> <p>○子どもの病気、薬、事故に関する相談に医療関係の専門相談員が電話で対応する「みえ子ども医療ダイヤル(#8000)」により電話相談を行いました。</p> <p>○平成26年度から、相談時間帯を準夜帯(19:30～23:30)だけでなく深夜帯(23:30から翌8:00)まで延長し、毎日19:30から翌8:00まで電話相談を行っています。</p> <p>H29:6,445件(H29.12末現在) (参考 H28:10,462件、H27:9,914件、H26:8,802件)</p>

取組方向	これまでの取組実績
<p>取組方向4 療養・養育支援体制の充実</p>	<p>【小児在宅医療】 ○三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンターと連携し、県内関係者を対象に小児在宅医療の普及・啓発、人材育成に取り組みました。(H25～29年度) ○三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンターが実施する医療的ケアを必要とする重症児のレスパイト・短期入所事業機能の拡充に対して支援を行いました。(H27～29年度) ○国の小児等在宅医療連携拠点事業の採択を受け、これまでの県内全域への小児在宅医療の普及・啓発に加え、桑名地区、鈴鹿地区をモデル地区とし、小児在宅関係者による会議を開催し、顔の見える関係づくりを行いました。(H25、26年度) ○市町における小児在宅医療の取組を推進するため、補助事業を創設し市町の取組を支援しました(桑名市、鈴鹿市)。また、他地域での取組を促進するための働きかけを行いました。(H27～29年度) ○愛知・岐阜・三重の東海三県が合同で東海三県小児在宅医療研究会を開催しました。(H26～29年度) ○「医療を必要とする子どもが在宅でより良く過ごすために」というテーマで三重県小児等在宅医療連携拠点事業シンポジウムを開催しました。(H26年度) ○三重県障害者自立支援協議会に医療的ケア課題検討部会を設置し、医療的ケアが必要な方の課題について協議しました。(H27～29年度) ○医療的ケアが必要な障がい児者の支援を行う中核的な事業所を拠点として位置づけ、多職種顔の見える関係づくりや相談支援専門員等のコーディネーターの人材育成、障害福祉サービス事業所等における受入体制強化などを行いました。(H28年度：津圏域、鈴鹿亀山圏域、伊賀圏域、H29年度：松阪多気圏域、伊勢志摩圏域、紀北圏域、紀南圏域) ○三重県医師会に委託し、医師をはじめとする小児在宅医療に関わる多職種連携会議を開催しました。(H29年度)</p> <p>【心身発達支援】 ○平成29年6月に三重県立子ども心身発達医療センターを開設し、国立病院機構三重病院を始めとする関係機関との連携を進めました。(H29年度) ○三重県立子ども心身発達医療センターにおいて、これまで県立草の実りハビリテーションセンター及び県立小児心療センターあすなろ学園、県児童相談センターの難聴児支援部門で取り組んできた取組を継続するとともに、子どもの心の診療拠点病院として、対象児へのケアのほか、市町や関係機関等への専門的な支援や人材育成支援に取り組みました。(H29年度)</p>